

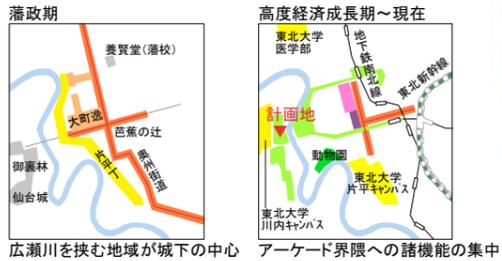
実施方針

# 「杜の都」のはじまりの地に市民活動の新たな起点・拠点となる複合施設をつくります

「杜の都」の形成過程を踏まえ、新たな歴史の起点をつくります

## ■ 広瀬川を中心に形成された「杜の都」

青葉山を囲う丘陵地は、伊達藩の仙台城築城により、藩政の中心としての「杜の都」としてはじまる。近代以降、広瀬川の東側に市街地が形成され、現在の仙台の中心が形づくられてきました。今回計画地は「杜の都」のはじまりの地であり、新たな起点創出の地となります。



仙台藩歴代藩主所用陣羽織 ※仙台市博物館所蔵

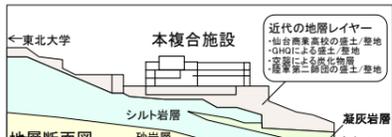
敷地の地層的なレイヤーに新たな市民活動の拠点となるレイヤーを重ねます

## ■ 歴史の堆積レイヤーと新レイヤー

奥羽山脈から連続する青葉山は80m近い高低差の河岸段丘の端部であり、今回敷地は、中町段丘に位置しています。

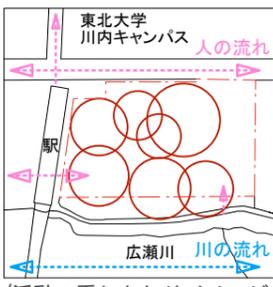


更に近代以降堆積した複数のレイヤーにより現在の地形が形成されており本複合施設が新たなレイヤーとして重なります。



## ■ ホール機能と災害文化発信機能の重ね合わせ

今回の施設プログラムである、ホールおよび災害文化発信機能を独立して運営可能としつつも、様々なかたちでの融合を誘発するための「重ね合わせ」のデザインとして樹冠や波紋のような円形が重なり合うプラン形態をつくります。



運用面との連動を重視し、対話を重ねて具体化します

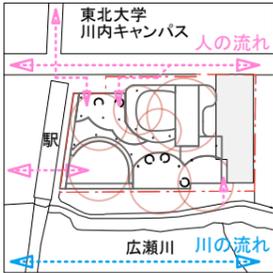
## ■ 「使われる」市民活動の器をつくる

プロ、アマを問わず市民活動の中心となり、創造拠点となる本複合施設は、常に「使われる」市民活動の器となるように運用サイドとの対話を繰り返し、フィードバックを重ねます



## ■ 多様な使い方を受容するシンプルな構成

遮音やプライバシーなど閉じる必要がある機能以外はオープンな構成としつつ各々をひろげのような居場所として設えることで、開館後に展開される多様な使い方を受け入れることができる、シンプルさを心がけます。



敷地条件とプログラムの特性を理解し、合理的な手法を選択します

## ■ 文化芸術・災害文化の創造拠点ならではのコスト削減

自然豊かな環境を活かしたこの場所ならではの建築的手法  
 ・外壁の更新、塗替え不要な素材の選定による維持メンテ省略  
 ・十分な断熱を施した省エネ建築とし、安定した室内環境提供  
 ・太陽光発電/雨水など自然エネルギーの徹底活用

## ■ ホール、大規模施設を効率化する環境設備設計

・空調熱源のシンプル化、装置用スペース、コストの大幅削減  
 ・各部空調系統の完全分離、熱負荷条件に合わせた運転可能  
 ・客席下部をピットチャンバーとしたダクトレス設計

## ■ 将来対応もフレキシブルなシンプルスケルトン

大小ホールのメンテナンス、災害/発信エリアの展示替えなどメンテナンス動線を確保することで部分的な更新にも柔軟に対応可能な配置です。また、外部広場には舞台機構を利用した「迫り」により車両が移動します



樹木のような柱と重なり合う機能が、多様な居場所と活動を生み出すホールを包む仙台ガラスや宮城県産木材など地域の素材に囲まれる

## ■ 多彩な分野担当を配置した設計チームで実現します

管理技術者 40代建築家 地域NPO副理事 東北某市震災復興小学校設計	密な連携	文化観光局複合施設整備室
建築主任 ホール主任 構造主任 1st管理主任 電気主任 ライト/カブ主任 機械主任 各分野担当者	会議体	複合施設整備アドバイザー 音響コンサルタント 仙台フィル/市民楽団 仙台市民/地域住民 大学/高校/未来を担う若者
公共施設の実績豊富な主任達、各分野専門家を加えて実現します。まちづくり/防災アート/建築照明/サイン/家具/ファブリック、	市民WS	

階別面積表	エリア別面積表
PHF 80㎡	ホール 10,500㎡
3F 8,720㎡	文化芸術創造支援・活用 3,950㎡
2F 6,820㎡	災害文化創造支援・発信 1,620㎡
1F 8,250㎡	広場 2,780㎡
BF 7,680㎡	運営 2,810㎡
合計 31,550㎡	その他 ※地下駐車場除く 9,890㎡

## 仙台の文化芸術の拠点/災害文化の創造拠点をみんなでつくるプロセス

本施設計画の特徴である音楽・芸術文化と災害文化の創造拠点という役割をどのように空間化し建築として実現するかは設計のプロセスの中で更に具体的に議論されるべき内容です。施設設計関係者、市民との議論の場を設け、その様子を公開/発信していきます。

8月 R05 R06

9月

10月

11月

12月

R07 1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

11/28 成果品

R08 R09

12月

R13

プロポ提案

基本設計スタート

中間案1 概算1

STEP

中間案2

STEP

中間報告

STEP

基本設計 概算2

STEP

実施設計

基本構想・基本計画の理解を前提とした、プロポーザルでの議論は、大変意義深いものです。単なる選定のイベントではなく本複合施設設計のベースとなる他提案者、審査員との議論を大いに活かして設計にのぞみます。

複合施設MTG(キックオフ/以降定期)  
チームとしての一体感の醸成が必須です。施設計画プロセスとスケジュールの共有、それぞれの経験と想いを語り合うことからスタート。  
**案都仙台・劇都仙台を体感**

↓例えば、「仙台まちづくり若者ラボWS」にて開催  
**複合施設WS①** **WSゲスト(地域・音楽)**

「語り合おう駅北地区複合施設への想い」  
1. 自己紹介  
2. プロポーザル案への意見  
3. 設計案への期待

音楽/震災施設関係者  
市内地域関係者  
意見交換  
実情/問題点/利用者意見を丁寧にフォローする  
オンライン活用で会場に来られない市民にも公開  
自己紹介、全体議論イメージ

**複合施設WS②** **WSゲスト(地域・防災)**

「進行形の設計案を検証する」  
これまでの打合せや検討・ヒアリングの分析から中間案を検証  
1.音楽ホールとしての役割  
2.震災メモリアル拠点としての役割

設計プロセスの開示1  
広く市内にむけてWSでの意見設計の進捗について示す

模型ステディ(グループワークイメージ)  
3Dでのシミュレーション(実績)ゲームコントローラーで施設内を回遊

**複合施設WS③**

「基本設計の中間報告」  
条件を整理、意見を集約した基本設計

**複合施設拠点使い方スクール1**

災害記録共有アーカイブ「SORA」連携  
音響模型実験棟建設  
音響模型製作

複合施設MTG(定期)  
音響模型の製作の進行とあわせて、ホールや音響関連の分野の充実をはかる。

複合施設MTG(定期)  
複合施設整備アドバイザーの意見を聞きながら、音響災害文化発信のハード面での実現を具体化する。ワークショップ、ミーティングを重ねた意見の反映と実施設計への展開を見据えて基本設計をまとめる。  
**複合施設拠点使い方スクール2**

経緯を振り返り、集約された意見やそこから導き出された設計意図を確認できる成果品をしっかりと作成する。

施設づくりレビュー  
「進行形の設計案を開示する」  
基本設計案を発展させた実施設計の進行状況の報告  
大きな模型を展示し実感

設計プロセスの開示2  
広く地域にむけてワークショップでの意見設計の進捗について示す

入札・工事 オープン **指定管理予定者等との調整**  
設計意図、WSでの地域住民の意見を確実に反映すべく町、指定管理予定者等運営予定者との密な連携

